港湾新聞　（毎週１回火曜日発行）　平成２９年（２０１７年）２月１４日　火曜日

「ビーチの日」（7月31日）登録認定

記念日登録証授与式・報告会開催2/8

NPO法人日本ビーチ文化振興協会（理事長＝朝日健太郎氏）は、7月31日が「ビーチの日」に、記念日として正式に登録認定されたことを受け、2月8日(水)午後6時半から、千代田区・霞が関の東海大学校友会館35階で、認定授与式を行った。

ビーチに関する意識向上を目的として、「なみのいい日」の語呂である、7月31日を「ビーチの日」として（一社）日本記念日協会に申請し、認定されたもの。7月第3月曜日の「海の日」と、8月11日「山の日」の中間日でもある。

朝日理事長

大村会長

菊地国土交通港湾局長

同協会は2003年から「海辺の通年活用による地域活性」を目的に、ビーチスポーツを通して、人と海辺のかかわりを深め、地域の活性化につながることを目的に、ビーチスポーツ大会の実施、ビーチでの健康プログラム構築、そしてビーチで繋ぐ観光交流など全国の海辺の多目的活用および啓発活動を行っている。

本年度、7月31日(月)には、『ビーチボーイズ』などビーチを盛り上げていく企画やビーチスポーツの祭典も予定しており、毎年の「ビーチの日」が固定化されるように推進。今後も全国各地の自治体と協力し、ビーチ・マリンスポーツを通して美しいビーチの環境を整え、オールシーズン賑わうビーチ文化を形成することを目指していくという。

はじめに朝日健太郎NPO法人日本ビーチ文化振興協会理事長から「私はビーチバレー選手時代から世界を見てきました。どの国にも独自の文化がありますが、スポーツは世界共通です。そこで海辺の地域振興の一環として、ビーチスポーツを普及させ、ビーチ文化の啓発活動を日本各地で行ってきましたが、これからはよりグローバルに、世界を俯瞰しこのチャレンジに取り組みます。『ビーチゲームズ日本招致プロジェクト』により、2014年、ビーチスポーツ国際大会の日本誘致を旗揚げしました。世界中の人に日本のビーチに来てもらい、海辺の人々にビーチスポーツの魅力を知ってもらいたい。例えば『砂ソムリエ』とは、私が独自の感性に基づき最高の砂とはどういったものかをお伝えし、海辺の良さを感じていただくものです。このように我々は海辺が一年中賑わうよう、数々の海辺文化の啓発活動を15年行ってきました。これからも海辺文化の振興に邁進し、今年は更にビーチという最高の空間があることを知っていただきたく、新チャレンジをします。NPO法人日本ビーチ文化振興協会設立15周年記念事業と日本記念日協会認定『ビーチの日』の制定は、一年を通してビーチが多くの人で賑わい、海辺の文化が根付くことを目標とする我々の活動の象徴となるものだと思っています。『ビーチの日』が日本全国の皆様にとって、海を感じることができる素敵な日となるよう我々も益々邁進して入りますのでどうぞ『ビーチの日』をよろしくお願い致します」とあいさつをした。

続いて加瀬清志（一社）日本記念日協会代表理事が、朝日理事長に記念日登録証を授与し、満場の参加者から拍手が起こった。

次に加瀬日本記念日協会代表理事が「ビーチの日」の日付の決め方を称賛し、あいさつをした後、加瀬日本記念日協会代表理事、大村哲夫NPO法人日本ビーチ文化振興協会会長、朝日NPO法人日本ビーチ文化振興協会理事長、遊佐雅美同副理事長、佐伯美香同理事が登壇して「記念撮影を行った。

引き続き同会場で活動報告会が行われ菊地身智雄国土交通省港湾局長が「港湾局は、日本ビーチ文化振興協会を発足当時から応援させて頂いています。クルーズ船で来られたお客様との交流などもありがとうございます。子供たちの光輝く未来のためにも、これからも港湾局は活動を支えていきます」と述べ、乾杯の音頭を取った。

さらに、大村ビーチ文化振興協会会長が、錦織孝一鹿嶋市長に、日ごろの海辺活用と地域活性活動に関して感謝状を贈呈して、朝日理事長も加わり記念撮影をした。錦織鹿嶋市長から、「日本は海岸線が大事です。ビーチ文化振興協会の発展をお祈りします」と、お礼の言葉の後和やかな歓談が行われ、佐伯美香理事が中締めをして盛会裏に終了した。

錦織鹿嶋市長（中央）に感謝状贈呈

記念日登録証授与の模様